



# AREA WEB



令和6年9月17日 発行  
峡東教育事務所  
教育支援スタッフ (担当)  
電話 0553-20-2731  
Fax 0553-20-2733

**PDF版はこちら**

峡東教育事務所のHPに掲載中！  
「エリアウェブ」で検索



**8月20日保幼・小・中連携セミナー「子どもたちの『安全基地』をめざして～多様なニーズを持つ子どもたちの理解と支援～」**

**山梨県教育庁特別支援教育・児童生徒支援課 副主幹・指導主事 小林 ゆかり 氏**

8月20日に甲州市市民文化会館において、本年度2回目の峡地連活動となる「保幼・小・中連携セミナー」が行われました。

今回のセミナーでは、まず参加者を「①保育園・幼稚園 ②小学校 ③中学校・高校・その他」に分け、異なる校種の3人で1グループとなり、約30グループをつくりました。講師の小林ゆかり先生にお願いして、講演のさまざまな場面でグループディスカッションを行いました。初めて会う3人での議論が深まるような工夫が随所にされており、事後アンケートでも『よかった95.3%、おおむねよかった4.7%』と肯定的な感想が100%という高評価でした。

講演では始めに、子どもが成長の過程で、家庭から地域、地域から社会全体へと活動の場を広げていくには、保育園・幼稚園から小学校、小学校から中学校そして高等学校と、関わる大人が意識を共有し、連携していくことの重要性が語られました。

講演の概要は以下の通りです。詳細は11月発行の「講演録」をご覧ください。

ヒラリー・クリントンの「村じゅうみんなで」という絵本には、“It takes a whole village to raise a child” 「子ども一人を育てるには村が丸ごと必要である」と書いてあります。子どもたちが育っていくには、家庭だけの力ではできません。家庭から地域コミュニティに、そして社会全体へと活動の場を広げていきます。こうした経験がその子の人生を豊かにし、一人前の人間に育てていきます。そのためには村が丸ごと必要だと言っているのです。

## 1. ちゃんとの呪い

- ワーク① 子どものどのようなことが気になりますか。
- ワーク② その子に今どんな支援をしていますか。

大人は、子どもに対して、この場ではこうしてほしい、何年生だったらこういう姿であってほしいといったラインをもっています。そこに達していない姿を見ると心がざわつき、その状況を早く解決したい思いにかられます。今のうちに何とかしておかないと将来困るという使命感が大人に生まれます。

小学4年生の通常の学級の中には、小学1年生から中学1年生までの能力の子どもたちがいる可能性があります。小学4年生だからといって、小学4年生のラインだけを狙うのではなく、小学4年生には6歳の幅があって、その幅の中の子どもたちを受け止めて指導をしていくことを意識する必要があります。

近年はクラスの中に外国にルーツのある子がいたり、家庭の状況で貧困やヤングケアラーなどの問題を抱えている子がいたり、35人や25人の学級でも多様性のある学級になってきています。その中で、私たちが持っているラインに当てはめようと強く思うと、「ちゃんと年齢相応にさせなくては」という「ちゃんとの呪い」にかかります。

心がざわついたときは、「今はこういうもの」と割り切りましょう。そうすることで、気持ちに余白ができます。

**本日のポイント その1 気持ちに余白をもって多様な子どもたちと向き合おう**

## 2. 困った子？

ある出来事をきっかけに、『みんなが困った子だと思っていた子自身が実は困っていた』ということに気がきました。

見方を変えることをリフレーミングといいます。リフレーミングする際に大事なことは多角的に見るということです。4つの目で物事を見る習慣を作ることが大事です。鳥の目は全体を俯瞰して見ること、魚の目は時間の流れを見ること、虫の目は物事を細かく見ること、そしてモグラの目は実際には見えていない裏側を見えるということです。また、子どもたちを理解して接していく時に、ぜひ児童生徒理解の守備範囲を広げてください。

- ワーク③ その子の見方をリフレーミングしてみましょう。

**本日のポイント その2 リフレーミングと4つの目で子ども理解の守備範囲を広げよう**

## 3. 言動に込められた「意味」

子どもたちが発する暴言の正体は、「ネガティブ感情の語彙の乏しさ」と言われています。悔しい、情けない、苦しい、難しい、羨ましい、思い通りに行かないというネガティブな感情を素直に出すことができなくて、相手を脅すようなきつい言葉を選んでしまうのです。この部分を言語化してあげることを、時間をかけて伝えていく必要があります。



会場では各グループで積極的な意見交換が行われました



2001年から小学校教員として勤務。通常の学級担任15年、特別支援学級担任5年の経験を積み、2021年4月より指導主事として、県内公立小中学校の特別支援学級や通級指導教室の指導助言、特別支援教育に関わる研修を担当されています。

子どもはルールよりもラポールに従うと言われていました。大人も子どもも、自分が認めた人、自分のことをわかってくれる人の言うことはよく聞きます。暴言でアピールしなくても弱音をこぼせる関係づくり、環境づくりを心がけると良いと思います。

### 本日のポイント その3 ラポールで安心して過ごせる環境を作ろう

#### 4. 「3匹のタイ」と3つの「あ」

子どもは自分が安心して過ごせる場があると、そこから新しいことにチャレンジして行く勇気を培って、新しい環境に飛び出して行くことができます。そういう安全基地という場所が本当に子どもたちにとって大事な場所になります

心を育むには、子どもが認められているという実感を持てるような経験を重ねていくことと、大人が『小さなことも褒めて見守っている』というメッセージを送っていくことが大事です。短く太くほめることがほめ方のコツです。叱り方のコツは行動を叱ることであり、意欲は否定しない。叱った後に「そうそうそれでいいんだよ」というハッピーエンドで終わるような叱り方をしてください。

子どもの心には「ほめられタイ」「認められタイ」「頼りにされタイ」という「3匹のタイ」が住んでいます。この3匹のタイを満たせるような声かけをするといいです。伝えたい3つの「あ」は「あいしてる」「ありがとう」「あなたのおかげ」です。「あなたのおかげで助かったよ。ありがとうね」という言葉を言ってあげると、先生から信頼されているんだと思ってくれるようで、ラポールの形成にも繋がります。

### 本日のポイント その4 安心して過ごせる安全基地を作ろう

#### 5. 必要なのは「大人の〇〇と〇〇〇」

子どもの育ちは振り子運動と言われていました。どの子も学校などの背伸びの場（自分の能力を伸ばす場）があって、ちょっと頑張っている様な体験をします。そこでつまずいても、安全基地に戻ってエネルギーを補給して、また背伸びの場に行くことができる。この振り子運動を繰り返すことによって子どもたちが成長をしていきます。

この時に親以外の安心できる他者の存在が大事だと言われていました。様々な多様性を持っている子どもたちをこの地域で受け止めて育てていくためには、私たち大人が多様性を認めていく心が広くなくてはなりません。好きなものや好きなことが多い人は、多様性を認める心が広いと言われていました。子どもたちが安心してできる環境に必要な物は大人の笑顔と上機嫌です。

3匹のタイと3つの「あ」は、実は子どもだけでなく大人にも伝えたい言葉だと思えます。一緒に働いている皆さん同士で「ありがとう」「あなたのおかげだよ」という言葉をかけ合う、そんな職員室や地域を作っていくことが大事ではないかと思えます。

### 本日のポイント その5 大人の安全基地も作ろう

ワーク④ これからどんな支援ができそうですか。

現在行っている支援が決してダメな支援ではないと思います。3人組で情報交換する中で、自分が考えなかったようなことを情報としてもらったり、こんなこともできそうかもという考えが浮かんだりした方もいるのではないのでしょうか。

中学3年生の時に書いた『自閉症の僕が跳びはねる理由』が大ベストセラーになった東田直樹さんがNHKのインタビューで「みんなの未来と僕たちの未来が同じ場所にありますように」とおっしゃっています。子どもたちの未来が同じ場所にあるように、私たち大人が連携を大事にしながら、子どもたちを育てていけたらと思います。

## 峡東管内中学生防犯・交通安全弁論大会 ～県大会での健闘を祈ります(^o^)/～



実施日等	防犯弁論の部・最優秀賞	交通安全弁論の部・最優秀賞
8月30日・日下部警察署管内	田辺 真穂（塩山中）	柳場 湊斗（勝沼中）
9月 6日・笛吹警察署管内	笠井 陽向（石和中）	樋口英玲奈（石和中）



## 令和6年度 峡地連関係の講演会

### 『人権のための講演会』（笛吹市教育委員会共催）

日時 令和6年11月14日（木）午後3時～5時（受付・午後2時30分）  
 会場 いちのみや桃の里ふれあい文化館 多目的ホール  
 内容 「わたしたちができること～性の多様性を前提とした社会のために～」  
 講師 一般社団法人にじーず 古堂 達也 氏



右のURLまたはQRコードからお申し込みください

<https://forms.office.com/r/rEemG6gy75>

## 「地域の思いが込められた太鼓の演奏」～万葉うた祭り岩手小太鼓～山梨市立岩手小学校

6月7日に万力公園で開催された万葉うた祭り開祭式において、岩手小学校の児童たちによる太鼓の演奏が披露されました。

岩手地区には、五穀豊穡を願い、古くから道祖神祭りに和太鼓のリズム「岩手太鼓」が伝えられてきました。太鼓の打ち手が年々減っていく中で、「岩手太鼓」を小学校の学習の中で導入することで、地域の伝統文化を継承してほしいと地域の方々からの働きかけがありました。その後、地域の方が岩手小学校で「岩手太鼓」を教える活動が始まり、平成2年度から教育課程の中にも位置づけられました。また、地域に伝えられてきた「岩手太鼓」をもとに、小学生向けの「岩手小学校太鼓」が創作され、現在は、岩手小児童の保護者でもある岩手太鼓保存会の村上直



万葉うた祭りにおいて素晴らしい演奏が披露されました



全員で心を合わせて演奏しました

子さんに指導をしていただいています。10月の東山梨音楽発表会までは4、5、6年生が、11月からは3、4、5年生が取り組みます。運動会、卒業式などの校内行事で演奏が披露されるほか、大石神社祭典や夏祭り、敬老会などの地域の行事では、「岩手太鼓」「岩手小学校太鼓」があわせて演奏されます。まさに家庭・地域・学校が一体となった活動です。

みんなで心を合わせて演奏することを楽しむほか、太鼓の演奏活動を通して、地域を知り、地域の文化を継承することの大切さや、地域全体が一つになり協力して活動することの素晴らしさを学んでいます。

今年度の万葉うた祭りでは、これまで練習を続けて演奏披露してきた「岩手太鼓」、「岩手小学校太鼓（序の章、急の章）」の3曲に加えて、「岩手小学校太鼓（破の章）」を復活させ、演奏披露しました。当日の演奏前は児童たちも緊張していたようでしたが、上級生が中心となり一致団結することにより、演奏後はみんながやりきった笑顔を見せていました。

## 「家庭・地域・学校が一体となった子育て」～富士見の子どもを守り育てる運動～ 笛吹市立富士見小学校

6月7日に富士見小学校で令和6年度「富士見の子どもを守り育てる運動」実行委員会が行われました。

「富士見の子どもを守り育てる運動」とは富士見小地区の児童・生徒の健全育成のため、『児童・生徒を「地域社会の一員」として守り育てる教育の推進』をテーマに、家庭・地域・学校が一体となって行う活動のことです。

その実行委員のメンバーは富士見小・石和中の教職員、地区担当の富士見小・石和中の保護者、区長、公民館長、主任児童委員の方々です。PTA会長さんが実行委員長となり、PTA副会長さんたちと校長先生が副実行委員長を務めています。



校長先生から実行委員の皆様へのご挨拶

富士見小ではこの活動を昭和46年から行っています。また、富士見小は市内で最初のコミュニティ・スクールであり、学校運営協議会の制度を用いて、地域と一体となり特色ある学校づくりを進めていくことができます。

「富士見の子どもを守り育てる運動」はコミュニティ・スクールの基本理念とも一致しており、まさに古いようで新しい取り組みであるといえます。

会では始めに令和5年度活動の概要が報告され、続いて今年度の組織および役員・年間活動テーマ・年間活動計画等が審議・承認されました。活動方

針では一地域の人々との「ふれあい活動」の推進一が決議され、あいさつ運動やスマホやゲームの使い方も含んだ基本的な生活習慣を身につけさせるなどの具体的な内容が決定しました。

全体会の終了後には集落ごとに話し合いが行われ、集落集会の日程等が話し合われました。7月までに開かれる集落集会の中で、生活体験、レクレーションの実施等が検討され、ふれあい活動、地域美化活動が年間を通じて行われていきます。この日の集落集会の中でも地域の大人と子供が顔を合わせる機会の重要性が話し合われたり、過去に実践された神社の清掃などの事例が紹介されたりしていました。



事務局から今年度の活動についての提案



集落ごとの話し合いの様子

## 「備えあれば憂いなし」～防災安全教室（煙体験・起震車体験）～ 甲州市立塩山北小学校

元日の能登半島地震で被害に遭われた皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。

6月10日に塩山北小学校で、県立防災安全センターの協力により、煙体験と起震車体験が行われました。煙や地震の恐ろしさを体験することにより、突然の災害に対し対処法を学んだり考えたりすることが目的です。

煙体験では、多目的室を煙で充満させ、火災の際にどれほど視界が遮られるのか体験しました。実際の火災では扉を開けることにより、室内に酸素が送られ、火災が爆発的なものになることもあるなどの注意も受けました。また、煙は熱を帯びているため上へ向かっていくので、姿勢を低くすると視界がよくなることや、煙を吸うと喉をやけどすることがあるというお話があり、児童たちは真剣に聞いていました。



起震車体験の前に説明を聞きました

起震車体験では震度4から震度6弱までを体験しました。事前に、揺れが起こったら机の下に頭を入れることや、机の脚のつかみ方などの説明を聞きました。さらに、実際の地震では机は床には固定されていないので、脚をつかんでいることも難しいことや、机の上に置いたものや食器棚の中の食器が落下してくることを学び、児童たちは「本当の家だったら大変なことになるよね」などと語り合っていました。

災害はいつ襲ってくるかわかりません。今回の体験により、災害に備えていく心構えが養われました。



煙により視界が遮られる様子を体験しました



起震車では震度6弱を体験しました

## 「交通事故の危険性を自分事として捉えよう」～交通安全教室～ 笛吹市立石和中学校

6月10日に石和中学校で交通安全教室が行われました。

今年度石和中学校は自転車安全利用推進校に指定されており、交通安全教室に先立ち、笛吹警察署から校長先生に指定書が交付されました。また、生徒の代表が自転車安全利用推進リーダーに委嘱され、記念品とともに委嘱状が手渡されました。

その後、スクアード・ストレート式交通安全教室が行われました。スタントマンにより交通事故が再現されると、生徒たちは



スタントマンにより交通事故が再現されました

驚きの声を上げたり、自らの運転が危険であったことに気づいたりしていました。「今の事故の再現の中に現れた自転車の交通違反を教えてください。」などのクイズや、内輪差の危険性を体験する場面や、自動車の運転席からの死角についてみんなで確認する場面もあり、盛りだくさんの内容でした。

歩行者優先の原則が自転車にも当てはまることやスマイルコンタクトなど、すぐに実践できることも多くありました。

生徒たちからは「たった一人が右側通行をただけであればほどの大きな事故につながっていくとは驚いた。」や「安全確認の大切さを知った。並列走行も今まで何度かやってしまっていたが、今後は絶対にやらないようにしよう。」などの声が上がっていました。

交通事故は誰もが加害者にも被害者にもなりえます。大切な命を守るためにも、一人ひとりが交通安全を自分事として捉えていくことが大切であることを学んだ機会でした。



自転車安全利用推進リーダー委嘱状が手渡されました



運転席からの死角についてもみんなで確認しました

## 『moritomirai』体験会 ～SDGs 特別授業～ 笛吹市立一宮中学校

カードゲーム「moritomirai (モリトミライ)」をご存じでしょうか。森の問題を知り、今の暮らしにあった森との関わりや持続可能な森林の活用について考えるカードゲームで、プロジェクトデザインと山梨日日新聞社が共同で開発しました。このゲームにより、経済活動と森林資源循環の両立を学ぶことができます。



どのカードを使うか相談して決めます

6月13日に一宮中学校において、SDGs 特別授業として、「moritomirai」体験会が行われました。2年生の2クラスがそれぞれ



メーターの増減に一喜一憂

1つの町をつくっているという設定で、3～4名のチームが「木を切る人」「学校の先生」など10の役割のうち一つを担当し、「仕事カード」と「生活カード」を使って、「森への愛情」「手入れ・管理」などのメーターの増減に配慮しながら、設定された資金の獲得やメーターの設定値のクリアを目指しました。



ターンが進むにつれ活発な相談がされるようになりました

始めのターンでは、自分の役割のことしか考えていないチームが多かったようですが、ターンを重ねるにつれ、他のチームとの話し合いや協働、さらには資金の融資なども活発に行われるようになりました。そのため、ほとんどのチームが目的を達成できました。

各ターンが終了するごとに、このターンの行動について振り返る機会があり、さらに、ゲーム終了後にはダイアログを行い、他者の意見に学ぶ機会もありました。

生徒の代表からは「人工林を整備することの必要性は理解したが、原生林における原生動物の保護などにも取り組んでみたい」といった異なる視点からの意見や、「自分たちだけの利益を見ていると、全体としてはかえって不利益になることもある」といった意見も出され、大いに学んだ120分間でした。

## 「農作業を通して地域を学ぶ」～伝統のブドウ農作業体験～甲州市立勝沼中学校

地域の基幹産業であるブドウ栽培への関心を持ってもらおうと、1968年に、勝沼中学校の生徒がテラウェアのジベレリン処理を体験する事業が始まりました。その後50年以上続いてきましたが、近年、農家自体の減少の他、シャインマスカットなどへの転換のため、テラウェアを出荷する農家は減少しています。そのため、近年はジベレリン処理だけでなく、傘かけや袋かけなど、それぞれの農家さんに指示された内容について体験を行っています。



ひと房ずつ丁寧に傘かけを行いました



おいしいブドウができますように

6月13日、14日の2日間、勝沼中学校の2年生64名がブドウの農作業体験を行いました。勝沼で今年初めて35度の猛暑日を観測した14日に取材を行いました。

取材にうかがった畑では10名の生徒が傘かけ作業を行っています。午前中に4000～5000房の傘かけ作業を行うことになっているとのことです。「自分の家やおじいちゃんおばあちゃんの家にはブドウ畑がある人いますか」と質問したところ、10人中1人だけが手を上げました。ほとんどの生徒が初めての作業だと言います。生徒たちからは「上を向いての作業なので首や肩が痛い」や「大きい房の方がやりにくい」、「暑い中での作業は大変だ」などの声が上がっていました。

今回作業を行った畑は登下校中に通学路から見るすることができます。作業中の生徒に「この傘はいつ外すの」と聞くと「収穫の時までついています」と得意げに回答してきました。自分がつけた傘によって立派なおいしいブドウができることを楽しみにしている様子でした。

## 「英語と日本文化で国際交流」～エイムズの中学生との交流～甲州市立塩山北中学校

米国アイオワ州エイムズは、旧塩山市が1993年に友好都市を締結し、市町村合併後も相互に国際交流が続いています。7月10日にエイムズから訪れた中学生11人が、塩山北中学校の生徒たちと交流を行いました。

まず、3年生の英語の授業で、北中生が事前に用意した英文を使って、エイムズの中学生にインタビューしました。「What is the most popular food in America?」「How many books do you read a week?」などの質問を、自分の力で頑張って伝えようとする姿が見られました。北中生たちからは「自分の英語が通じてうれしい」や「結構会話するのは難しかったが、相手が何を言っているかを何とか理解できた」などの発言もありました。これが国際交流の第一歩ではないでしょうか？

続いての時間は、全校生徒で日本文化を通じての交流会です。進行は各学年委員が英語で行い、廣瀬はづき生徒会長の挨拶も英語でした。テーブルごとに自己紹介をしてから、新聞紙や折り紙でカブトづくりを行いました。その後、けん玉に挑戦しましたが、短い時間でとても上手になりました。そして、北中生による「365日の紙飛行機」の合唱が披露され、エイムズの中学生を喜ばせていました。

北中生からは「日本の文化をたくさん教えることができ良かった。まだ自分は英語を上手にしゃべれないから、これからもっと勉強しようと思った。」、エイムズの中学生からは「英語の授業にも参加できてよかった。みなさんの英語は素晴らしいと思います。」や「パフォーマンスが素晴らしかった。日本の学校の様子を知ることができまし、日本とアメリカの違いもわかった。」などの感想が述べられました。

その後は、みんなで一緒に給食をいただきました。10月には甲州市の中学生がエイムズを訪れる予定となっているそうです。



カブトよく似合っています



質問がうまく伝わる  
でしょうか



何度かチャレンジして  
できたときはみんなで拍手

## 「異年齢・母語の異なる相手とのコミュニケーション」山梨市立日川小学校・山梨県立日川高等学校

7月10日、日川小学校に日川高校生と英国からの短期留学生在が訪問し、異校種・異文化の交流が行われました。日川小学校の6年生が、体育館に高校生たちをむかえます。いつもはとても元気な6年生たちですが、なんだか緊張している様子です。

日川高校と英国 Katharine Lady Berkeley's School (キャサリン・レイディー・バークレーズ・スクール 以下「KLB校」)は平成10年に姉妹校提携して以来、毎年相互に生徒が行き来し、海外研修を行ってきました。コロナ禍での中断があったため、今年3月に日川高校生が5年ぶりに英国を訪れました。今回、来

日した KLB 校生たちは、そのときにホストファミリーをつとめてくれました。今回は、逆に日川高校生のお宅にホームステイしながら日川高校に通っています。

この日の交流では日川小・日川高・KLB校が1～2人ずつ5人程度のグループを作り、自己紹介をした後、「サイエンス神経衰弱」のゲームで交流を図りました。日川小の児童たちは、普段の英語の授業の成果を発揮できるよう努力していました。

1ゲームが終わったところで休憩に入りましたが、ここで高校生たちのバスケットボール対決が始まりました。長身のKLB校生のダンクシュートに体育館では歓声があがりました。

休憩後はメンバーを入れ替えて2ゲーム目。ルールにも英語にも慣れてきて、今度はスムーズにゲームが進行しました。

ゲームが終わった後は、お互いに用意してきた手紙の交換。日川小の児童が描いたアニメのキャラクターの手紙をもらった KLB 校生はその絵のクオリティの高さにびっくりしていました。短い時間ではありましたが、それぞれに思い出深い交流となりました。



はじめにゲームのルールの確認  
1ゲーム目はうまく進行していきません



もちろんジャンケンも英語で行います



最後に全員で記念写真撮影  
それぞれに交換した手紙をもっています



◆地域情報紙エリアウェブを通じて、「他校種の情報を知ることができる」「連携のきっかけになる」とのお声を寄せていただいております。特別なイベントである必要はありませんので、お気軽に情報をお寄せください。(記事として紹介させていただきます。現在約 300 力所に配布中)

**☎0553-20-2731(担当・直通)**



エリアウェブ  
バックナンバー



## 峡東教育事務所からのお知らせ

◆6月27日の「子育て講演会」には多くの方にご参加いただきありがとうございました。  
「講演録(アンケート結果を含む)」が完成しましたので、各所属に配布させていただきます。  
以下はアンケートからの抜粋です。(詳細については、講演録をご覧ください)

- 当日参加者数158人(申込192名)
- 講演会について (A よかった91% B おおむねよかった9%)
- 今後に役立つと思いますか (A 思う86% B おおむね思う13% C あまり思わない1%)
- 内容は関心のあるものでしたか (A あった74% B おおむねあった25% C あまりなかった1%)

◆8月22日の「保幼小中連携セミナー」には多くの方にご参加いただきありがとうございました。  
以下はアンケートからの抜粋です。(詳細については、11月発行の講演録をご覧ください)

- 当日参加者数182人(申込数204名)
- 講演会について (A よかった96% B おおむねよかった4%)
- 今後に役立つと思いますか (A 思う93% B おおむね思う7%)
- 内容は関心のあるものでしたか  
(A あった82% B おおむねあった16% C あまりなかった2%)

